

舟形町大型カルバート長寿命化修繕計画
(個別施設計画)

令和4年8月改訂

舟形町

1 現状と課題

舟形町が管理する供用中の大型カルバートは1箇所であり、令和3年3月31日現在における竣工後50年を超える大型カルバートはない。

現在、構造物の機能に支障は生じていないが、定期点検による現状把握の結果、確実な対策（早期補修）が必要となる。



若あゆ温泉トンネル（平成12年竣工）

2 老朽化対策における基本方針

1) メンテナンスサイクルの基本的な考え方

今後、道路構造物は急速に老朽化していくと考えられている。その対策として、メンテナンスサイクルを確立するために具体的な点検頻度や方法等が法令で定められ、「道路の老朽化対策の本格実施に関する提言（平成26年4月）」では、メンテナンスサイクルを持続的に回すよう取り組むべきと提言されている。

このことから、大型カルバートに関しても長寿命化を図るため、「シェッド、大型カルバート等定期点検要領（国土交通省道路局 平成31年2月）」に基づき、5年に1回の頻度で近接目視点検を実施し、健全性の判定を4段階で区分し構造物の状態を把握していく。

I	健全	構造物の機能に支障が生じていない状態。
II	予防保全段階	構造物の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。
III	早期措置段階	構造物の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずるべき状態。
IV	緊急措置段階	構造物の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く緊急に措置を講ずるべき状態。

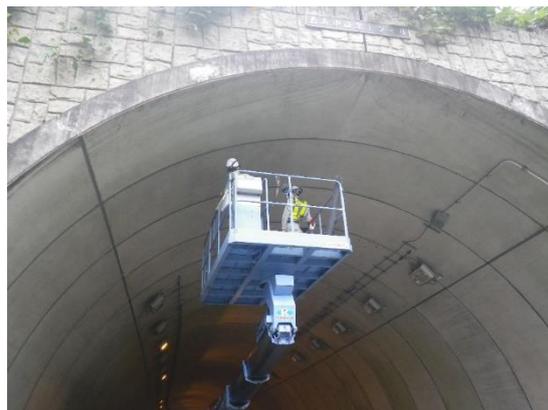
点検・診断結果に基づき必要な措置を適切な時期に着実かつ効率的・効果的に講じ、点検結果とともに記録してメンテナンスサイクルを回すことで老朽化対策を推進していくことが必要である。

2) 対策の優先順位の考え方

点検結果に基づき、効率的な維持及び修繕が図られるよう必要な措置を講ずる。対策の優先順位は、大型カルバートの健全性のほか、第三者への影響度や路線の重要度などを総合的に勘案して判断する。

3 計画期間

計画期間は令和3年(2021年)から令和7年(2025年)までの5年間とする。次回点検後、点検結果から変状の進行性を推考し、計画の見直しを行う。



大型ボックスカルバート 第2巡目点検状況

5 構造物の諸元

施設名と所在地	所在地	町道路線番号	竣工年次	管理延長 (m)	幅員 (m)
若あゆ温泉トンネル	舟形町大字 長沢地内	258 町道一の関若 あゆ大平線	平成12 (2000)年	100	6.0

6 点検・修繕計画

判定は、平成28年度から変わらず、判定Ⅱとなっている。次回点検までに、Ⅱ判定の箇所については、定期的に監視を行い、変状の進行が確認された場合に、対策を行う。

点検年度	健全性 区分	対策内容	対策費用 (万円)	対策の着手・ 完了年度	次回点検 年次
令和3 (2021)年	Ⅱ	止水対策の強化 断面修復工 路盤工	400	構造物の変状 の進行、財政状 況を考慮し設定	令和8 (2026)年

7 新技術等の活用方針

コスト縮減や維持管理の効率化を図るため、国土交通省「新技術情報提供システム（NETIS）」を活用する等、維持管理に関する最新のメンテナンス技術の積極的な活用を図る。また、定期点検・補修工事を実施する際には、新技術等を活用するなどコスト縮減を検討する。

8 費用縮減に関する具体的方針

令和7年度までに、従来技術を活用した点検・修繕と比較して、約2割程度のコスト縮減を目指す。